(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公表特許公報(A)

(11)特許出願公表番号

特表平6-507879

第3部門第1区分

(43)公表日 平成6年(1994)9月8日

(51) Int.Cl.5

識別記号 庁内整理番号

FΙ

C 0 1 B 31/02

101 Z 7003-4G

審査請求 未請求 予備審査請求 有 (全 5 頁)

特願平5-500327 (21)出願番号 平成4年(1992)5月22日 (86) (22)出願日 平成5年(1993)11月24日 (85)翻訳文提出日 PCT/US92/04350 (86)国際出願番号 WO92/20622 (87)国際公開番号 平成4年(1992)11月26日 (87)国際公開日 (31)優先権主張番号 705, 310 1991年5月24日 (32)優先日 (33)優先権主張国 米国(US) EP(AT, BE, CH, DE, (81)指定国 DK. ES. FR. GB. GR, IT, LU, MC, N L, SE), CA, JP

(71)出願人 マサチューセッツ・インステチュート・オ ブ・テクノロジー アメリカ合衆国マサチューセッツ州02139, ケンブリッジ,カールトン・ストリート 28 ルーム イー32-300

(72)発明者 ハワード,ジャック・ピー アメリカ合衆国マサチューセッツ州01890, ウィンチェスター,セントラル・ストリー ト 24

(72)発明者 マッキンノン,ジェイ・トーマス アメリカ合衆国コロラド州80304,ボウル ダー,ドゥーイ・アベニュー 6035

(74)代理人 弁理士 湯浅 恭三 (外6名)

(54)【発明の名称】 フルレン類を製造するための方法

(57)【要約】

火炎中でフルレン類を合成するための方法が提供される。フルレン類は、炭素含有化合物を火炎中で燃焼させ、 凝縮物を収集することにより製造される。 凝縮物は、所 望のフルレン類を含有する。フルレン収率は、最適化することができ、フルレン組成は、選択的に変化させることができる。フルレン収率および組成は、火炎条件およびパラメータ、例えば、C/O比、圧力、温度、滞留時間、希釈剤濃度およびガス速度を選択的に制御することにより、決定される。

請求の範囲

- 1. 火炎中、炭素含有化合物を燃焼し、フルレンを含有する生成腰縮物を収集することを含むフルレン類を製造するための方法。
- 2. 火炎条件がフルレン類の生成を最大にするように選択された火炎中、炭素 含有化合物を燃焼し、最適量のフルレン類を含有する凝縮物を収集することを含 むフルレン類の製造方法。
- 3. 火炭条件が所望のフルレン組成を与えるように選択された火炎中、炭素含 有化合物を燃焼し、特定のフルレン組成を有するフルレン類を含有する凝縮物を 収集することを含むフルレン類を製造するための方法。
- 4. 火炎中、炭素含有化合物を燃焼し、フルレンを含有する膜瘤物を収集する ことを含み、室圧が実質的に大気圧であり、火炎条件がフルレン収率および組成 を最適化するように制御されるフルレン類を製造するための方法。
- 5. 前記火炎条件が、C/O比、圧力、希釈剤濃度、温度、帯留時間およびガス速度を含む群から選択されるパラメータの一以上を制御することにより設定される請求項2、3または4に記載の方法。
- 6. フルレン収率を最適化するように調整されたC/O比、C/H比、圧力、 看釈刺義度、温度、補留時間およびガス速度を有する安定な火炎を達成し;

安定な火炎中で連成される条件下で燃料を、この燃料はフルレン類を生成する ものであれば、いかなる炭素含有化合物であってもよい、主火炎燃焼反応が本質 的に完了するように選択されたポスト火炎域で前配火炎に導入し; さらに、

フルレン類を含有する凝縮物を収集する、

各工程を含むフルレン類の製造方法。

- エネルギーが、外部エネルギー震から火炎に加えられる請求項1,2,3,4または6に配載の方法。
- 9. 前記悉加剤が、ハロゲン類およびアルカリ土類金属、アルカリ金属ならびに鉄を含む群から選択される請求項8に記載の方法。
- 10. 機権物が、火炎の末尾から収集される請求項1.2.3.4または6に配整の方法。
- 2.6. 前記炭素含有化合物が、ベンゼンである請求項1.2.3.4 または 6 に記載の方法。
- 27. 前記希釈剤が、アルゴンである請求項5に記載の方法。
- 28. C/O比が、0.5より大きい請求項5に記載の方法。
- 29. C/O比が、実質的に、0.72~1.07の範囲である請求項5に記載の方法。
- 30. アルゴン希釈剤のモル%が、実質的に、0~40の範囲である請求項5 に記載の方法。
- 31. バーナにおけるガス速度が、実質的に、14~75 cm/sの範囲である請求項5に記載の方法。
- 32. 室圧が、実質的に、1.60~13.35kPaの範囲である請求項5に 記載の方法。
- 33. 前記機縮物内に含有されるフルレン類が、従来からの精製技術を用いて、 純粋な形態で得られる請求項1,2,3,4または6に記載の方法。
- 純粋な形態で得られる請求項1,2,3,4または6に記載の方法。34. 前記従来からの精製技術が、溶剤抽出、液体クロマトグラフィ、ガスク
- 35. フルレン類の収率が、全煤質量の0.003~7%の範囲である請求項1.2または3に記載の方法。

ロマトグラフィ、昇華および蒸留を含む請求項33に記載の方法。

- 36. 前記フルレン類の収率が、燃料炭素の0.002~0.24%の範囲で ある簡求項1.2または3に記載の方法。
- 3.7. 前記火炎が、磨液または乱流である請求項1,2,3,4または6に記載の方法。
- 38. 酸素または酸素リッチな空気供給を用いることにより、前配C/O比が、 一部制御される請求項5に記載の方法。

- 11. 前記機縮物が、バーナー室の内部表面から収集される請求項1,2,3, 4または6に記載の方法。
- 12. 前記機縮物が、火炎内部から収集される請求項1.2,3,4または6に記載の方法。
- 13. ブローブで凝縮物を取り出し、前記機縮物をトラップに収集することにより、前記機縮物が火炎内部から収集される請求項12に記載の方法。
- 14. 前記機縮物が、冷葉または化学的な急冷剤を火炎に住入することにより、 火炎から収集され、それにより、前記機縮物が機縮し、火炎中、収集点に運ばれ る請求項12に記載の方法。
- 15. C₇₀/C₄₀比が、実質的に、0.26~5.7の範囲である請求項3に 記載の方法。
- 16. 圧力が、減圧である請求項1.2.3または6に記載の方法。
- 17. 室圧を低下させて、燃料のフルレン類への転化率を向上させる請求項1, 2.3または6に記載の方法。
- 18. 火炎温度を高くして、燃料のフルレン類への転化率を向上させる請求項 1,2,3、4または6に記載の方法。
- 19. 前記火炎温度が、実質的に、1400K~3000Kの範囲である請求 項18に記載の方法。
- 20. C/O比を高くして、燃料のフルレン類への転化率を向上させる請求項 1、2、3、4または6に配載の方法。
- 21. 前記火炎が、煤生放火炎である請求項1,2,3,4または6に記載の 方法。
- 2.2. 前配火炎が、煤を生成しない火炎である請求項1,2,3,4または6 に記載の方法。
- 23. 前記炭素含有化合物が、いずれかの炭化水素である請求項1,2,3,4 またけらに記載の方法。
- 2.4. 前記炭素含有化合物が、化石燃料およびそれから誘導された生成物である請求項1,2,3,4または6に記載の方法。
- 2.5. 前記炭素含有化合物が、パイオマス燃料およびそれから誘導された生成 物である請求項1.2.3.4または6に記載の方法。

明細書

フルレン類を製造するための方法

発明の背景

本発明は、ブックミンスターフルレン類(Buckwinster(allerenes)またはフルレン類として公知の閉鎖カゴ形炭素分子に関するものである。

フルレン類は、最初、Kreto et al.により、グラファイトのレーザ放射によって生成する炭素蒸気中で報告された[Nature 318, 162-164 (1885)]。フルレン C coは、20個の6員環と12個の5員環とを含み、サッカーボール状の外観を有する閉鎖カゴ形炭素構造物である。これらの化合物は、2つの公知の形態、グラファイトとダイヤモンド以外の炭素の新しい類を表すので、科学的な関心を集めている。

フルレン類は、多くの重要な用途を有する。その構造中に金属カチオンを包接する能力は、工業的なプロセスにおいて、触媒として使用できることを示唆する。カリウムフルレン Cook 、T.が11Kである超伝導体である。フルレン Cook 面は、化学反応、例えば、水素化およびフッ素化を受けやすい。フッ素化されたフルレン類は、良好な滑利として顕待されている。

フルレン類の実用性は、安価で、効率的な方法により、その材料を大量に製造できないことにより阻害され、十分に発揮されないでいる。最近、C・・およびC 7・フルレン類は、抵抗加熱によるグラファイトの気化により、大量に製造されるようになった(Krastischmer et al. Nature 347, 354-358(1990)]。 媒生成後(sooting flame)中のフルレン類の形成は、これらの火炎に対して、多くのデータが使用できるので、非常に有望である。媒生成炎中に存在する木葉は、フルレン類も含め多環芳香族炭化水素(PAH)として知られる芳香族構造物を形成しやすいとされている。 Gerbardt et al.は、火炎中、フルレン類と同じ分子量を有する全て炭素のイオン類を検出した [Chem. Phys. Lett. 117, 306-310(1989)]。火炎中における中性種の存在は、未だ、明確には、確立されていない。

発明の概要

本発明の目的は、火炎中において、フルレン類を合成するための方法を提供することである。本発明のさらなる目的は、燃料炭素のフルレンへの転化を最適化するための方法を提供することである。本発明のさらなる目的は、フルレン組成

を選択的に変化させるための手段を提供することである。フルレン組成とは、異なる分子量と化学構造とを有するフルレン類の相対的な収率を意味する。

本発明の一つの態様においては、フルレン類は、炭素含有化合物を火炎中で燃焼し、その火炎の硬褶物 (condensibles)を収集することにより、製造される。 緩解物は、フルレン類を含有する。

本発明のもう一つの態様において、フルレン類は、炭素含有化合物を火炎中で 燃焼し、その機縮物を収集することにより、製造される。火炎条件は、フルレン 収率が最適化されるように選択される。機縮物は、フルレン類を含有する。

本発明のさらにもう一つの態様において、フルレン類は、炭素含有化合物を火 炎中で燃焼し、その鰻橘物を収集することにより、製造される。火炎条件は、フ ルレン組成を適択的に変化させることができるように、週択される。

製縮物は、それのみ、または、煤が存在する場合には、煤とともに収集することができる。 凝縮物または煤は、火炎の末尾から、火炎の内部から、あるいは、 燃焼中に付着するパーナチャンパの内部表面から収集することができる。 凝縮物は、ブローブまたはパイブで凝縮物を取り出し、その流れをトラップに薄くことにより、火炎内部から収集することができる。 大きなスケールでの操作においては、パイブは、水ジャケットで冷却することもでき、冷却速度を制御する手段を 具備する。

好ましい実施想様においては、火炎条件は、C/O比、室圧(chamber pressare)、火炎中の滞留時間、希釈濃度およびガス速度を制御することにより、設定される。アルゴンは、好ましい希釈剤である。燃料のフルレン転化は、高温になる程、室圧が低下する程、C/O比が増大する程、増大する。フルレン収率および組成は、火炎中の滞留時間に依存して変化する。しかし、その効果は、単調ではない。

本発明のもう一つの実施態様においては、火炎温度を上昇させ、それにより、フルレン収率を向上させるために、外部エネルギー源から、火炎にさらにエネルギーが供給される。好ましいエネルギー源としては、入力流の電気抵抗加熱、マイクロウエーブ加熱、放電加熱および向流加熱(commater current beating)が挙げられる。火炎温度は、実質的に、1400K~3000Kの範囲である。

その他の実施態楼において、添加物を火炎に含ませることができる。添加物、

例えば、ハロゲン類は、火歩中の有効水素の量を低下させることにより、燃料の フルレンへの転化を増大させるために使用することができる。 脈加物、例えば、 アルカリド土類金属類、アルカリ金属類および鉄は、フルレンの性質を変えるた めに火歩に含ませることができる。 特に、カリウムは、フルレンに抵加され、超 伝導化合物を生成することができる。

その他の好ましい実施態様において、室圧は、減圧である。火炎は、煤生成失であってもよく、煤を生成しない火炎であってもよい。火炎は、層流であってもよく、乱流であってもよい。燃料は、いずれかの炭化水素、化石燃料、パイオマス燃料、または、これらから誘導される生成物である。C/O比は、0.5よりも大きく、好ましくは、実質的に、0.72~1.07の範囲内であり、希釈剤濃度は、実質的に、0~40モル%の範囲内であり、さらに、ガス速度は、工業的なスケールでは、さらに速くすることもできるが、実質的に、14~75 にm/sの範囲内である。フルレン類の収率は、実質的に、金煤質量の0.003~7%の範囲である。フルレン類の収率は、実質的に、燃料炭素の0.002~0.2

本発明のもう一つの態様において、室圧は、大気圧または大気圧近傍に維持され、火炎条件は、フルレン収率を最大にし、所望のフルレン組成を得るように制御される。

さらなる柔軟性を付与するために、安定な火炎は、フルレン収率を最適化するように調整されたC/O比、C/H比、圧力、希釈剤機度、温度、滞留時間およびガス速度で連成することができる。燃料は、主火炎燃焼が本質的に完了する週択されたポスト火炎域で火炎に導入される。燃料は、安定な火炎中で達成される条件下で、フルレン類を生成するものであれば、いかなる炭素含有化合物であってもよい。 級縮物は、収集され、この緩縮物には、フルレン類が含まれる。このように、フルレン類が形成される条件は、火炎の安定性の要件によって支配されない。

フルレン類は、従来からの精製技術を用いて精製することができる。フルレン 類は、煤から溶剤抽出によって抽出することができる。抽出物は、さらに、精製 することができ、異なるフルレン趙分は、液体クロマトグラフィ、ガスクロマト グラフィ、超臨界流体クロマトグラフィ、昇華または蒸留技術を用いて、分離さ

れる。

図面の簡単な説明

図1は、火炎煤抽出物の電子衝撃マススペクトルである。

図2は、火炎煤抽出物の高性能液体クロマトグラムである。

図3は、CooフルレンのUV‐Vis(紫外-可視)スペクトルである。

図4は、CraフルレンのUV-Visスペクトルである。

好ましい実施態様の説明

本発明の方法に従えば、ベンゼン燃料は、火炎中で燃焼する。種々の範囲の条件下で、火炎から煤試料が収集され、従来からの技術を用いて、フルレン含量および組成が分析される。

アルゴン希釈剤を有するペンゼンと酸素との予備混合層流火炎は、ウインドウーおよび目視用のフィードスルー(feed-through)、光学的な診断装置およびプローブを備えた低圧室内において、水冷パーナ上で安定化され、減圧ポンプに排気される。火炎は、それを通して、供給混合物が供給されるドリルカッパーパーナ(drilled copper burner)から前方に均一に変位したフラット70mm径で安定化される。火炎は、熱遮蔽を付与する環状の煤を生成しない火炎により取り囲まれ、ほぼ、その内部の温度および種の濃度が、パーナ表面からの距離または滞留時間によってのみ変化する、ほぼ一次元のコアを与える。パーナは、以前は、煤の核形成および成長の機構研究に使用されていたが、研究された火炎は、温度および化学組成についてのかなりのデータが使用できるタイプについてである。

以下の範囲におよぶ種々の一連の条件下で火炎を生成させた。パーナ室圧1.60~13.35 kPi; 原子C/O比0.72~1.07; 希釈剤モル%0~30; パーナ298Kにおけるガス速度14~75 cm/s。各火炎は、1.6~2.8 時間維持した。

種々の様試料についての実験条件を表1に記載する。種々の媒試料についてのサンプリング技術は、渡2に記載する。煤は、また、各実験後、パーナチャンパの内部表面からも収集した。煤試料は、また。火炎内のパーナからの所定距離においても、火炎の末尾においても、室型フィルターに結合された木晶のプローブ、減圧ポンプおよびガスメーターを用いて、火炎から取り出した。火炎温度およびガス組成情報を用いて、種々の火炎中、プローブで収集された煤質量およびガス

体積は、供給炭素の0.8~12%の範囲の煤収率に相当することが判明した。

種々の実験において収集される煤を分析するための方法は、以下に記載する通りに行われた。煤試料は、室匯で超音波浴を用いてトルエンで抽出され、濾過された。試料の一つからの容蔽は、蒸発範固させて、質量分析計で分析した。典型的な電子衝撃(E 1)質量スペクトルを図1に示す。373K~673Kに加熱した直接挿入プローブは、試料を収集するために使用した。E 1 質量スペクトルは、C ***のおよびC ***ででいて予想される同位体比に非常に近い同位体比を有するビークを示し、煤試料が、それぞれ、m/e 720および840における分子イオンと、m/e 360および420における二価荷電分子イオンとを有するC ***で、m/e 360および420における二価荷電分子イオンとを有するC ***で、m/e 360および420における二価荷電分子イオンとを有するC ***で、nの混合物を含有することを示した。この結論は、煤抽出物のKB r ペレット試料についてのアーリエ変換赤外分光法によっても確認された。フルレンC *** について以前に報告されたピークと一致するピークを含有するスペクトルが得られた。この分析の興味深い結果の一つは、C ***で、フルレンの抵抗加熱グラファイト試料について報告されている比(0.02~0.18)よりもはるかに大きかったことである。これらの差は、フルレン類の収率および組成についての条件を処理する重要な効果を強調するものである。

様試料のトルエン抽出物は、分光光度計ダイオードアレイディテクター(DAD)に結合させた高性能液体クロマトグラフィで分面した。大きなPAHに有効であると証明されている分離スキームが使用された。トルエン抽出物についての典型的なHPLCクロマトグラムを図2に示す。分離は、オクタデシル結合シリカカラムを用いてメタノールージクロロメタン移動相で行った。吸収輸は、236~500mの波長区間にわたって吸収の和を与える。示された広いパンドDAD共鳴は、PAHについての質量に対しておおよそ比例する。表示されたC-60およびC-70ピークは、それぞれ、C₅およびC;□フルレン類について公知のビークに非常に合致する紫外(UV)スペクトルを与えた。a,b,cと表示したピークは、いずれの公知のPAHにも帰すことのできないUVスペクトルを与えるが、構造的には、フルレン類に関連するようである。これらのサテライトピークの一以上は、普通、フルレン類を含有する煤油出物のクロマトグラムに存在するよのアカった

広いパンドの紫外-可視スペクトル(UV-Vis)スペクトルを得るために

は、煤油出物のHPLC画分からの溶液を蒸発により濃縮し、HPLC移動相をスペクトル等級のデカリンで置換した。C-60およびC-70ピークのUV-Visスペクトルは、分光光度計を用いて得られた。図3および図4に示したスペクトルは、それぞれ、Ajit et al. によって報告されたC。かよびCァoについてのものと目視的に同一であった[J. Phys. Chem. 94, 1630-1633[(1990)]。

C。およびおCっであると考えられるHPLC画分のマススペクトルは、前述した装置および技術を用いて得られた。C-60ピークは、C。フルレンの報告された全ての特性を有するマススペクトルを与えた。前記マススペクトルは、m/e720に分子ペースピークを与え、水素の損失を示さず、m/e360に著しい二価荷電分子イオンを有した。同様に、C-70ピークは、Cっについて公表されたマススペクトルと非常に合致する特性を有するマススペクトルを与え、m/e840に分子ペースピークを含有し、m/e420に二価荷電分子イオンピークを与えた。したがって、UV-Visスペクトルによって示唆されるHPLCピークの同定は、マススペクトルにより確認される。HPLC法は、C。およびCっの重量検量を含めて、ついで、煤試料全てからのトルエン抽出物を分析するために使用した。

種々の試料についてのC set + C reの収率およびC ro/C se比を変3に報告する。 種々の火炎条件下で生成するC set + C reの収率は、煤の質量の 0 . 0 0 3 ~ 7% であり、これは、グラファイト気化からの 1 ~ 1 4%と比較される。燃料炭素の 0 . 2 4%または燃焼キログラムベンゼン当たりのC set + C re 2 . 2グラムに相 当する最大の収率は、2 0 torrの圧力、アルゴン 1 0%でのC/O比 0 . 9 9 5、 2 9 8 K でのバーナのガス速度 4 9 . 1 cm/s で得られた。火炎温度は、ほぼ 1 8 0 0 K であった。これらの結果と燃焼反応器をスケールアップする能力とを与えると、火炎合成は、フルレン類製造用の興味をそそる別法である。

火炎条件と最終フルレン収率および組成との間の関係は複雑である。媒の最終組成に影響を及ぼすファクタは、C/O比、室圧、希釈剤濃度、火炎中の滞留時間、火炎温度およびガス速度として特定される。一般に、温度が高い程、圧力が低い程、そして、C/O比が高い程、Coo+Cro収率が高いことが観測された。しかし、効果は単調ではない。

例えば、表 3 に報告された結果は、圧力を低下させると、 Cao+Croの収率が

増大することを示唆する。しかし、圧力を低下させるには、下限があり、それを 越えると収率が低下する。低圧は、火炎を通る質量の流速を低下させ、それによ り、温度を低下させ、フルレン収率に好ましくない影響を与える。

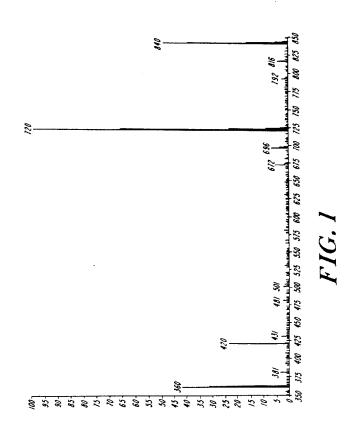
同様に、理論的には、あらゆる炭化水素が、フルレン合成のための燃料源として使用可能である。しかし、あるものは、他のものよりも高温で燃焼し、あるものは、高いC/H比を有する。燃料の選択は、フルレン収率および組成に十分に影響を及びす。

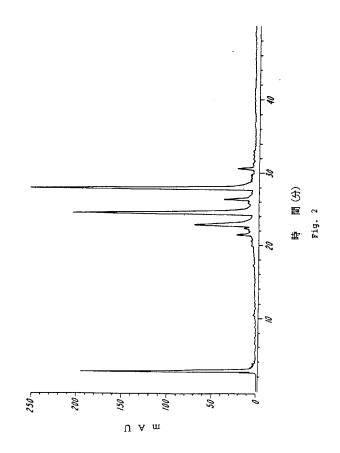
試料は、パーナチャンパの異なる位置で収集したが、これは、火炎中の滞留時間が異なることを表す。種々の滞留時間で、試料につき、種々のフルレン収率および組成が観測された。フルレン転化プロファイルを火炎中の滞留時間の関数として一般化し、所望のフルレンの最適化された収率と組成とに相当する時間で襲縮物を選択的に収集することができる。

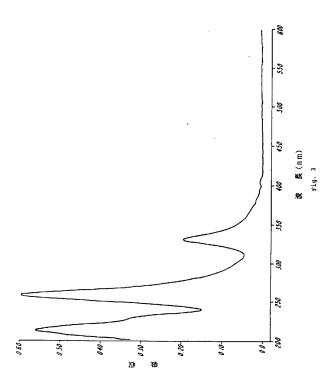
これらのパラメータが最終フルレン収率および組成に重要であり、フルレン類を効率よく合成するためには、フルレン製造を最大にする際に種々の処理パラメータの競争効果に注意を払う必要があることを認識すべきである。

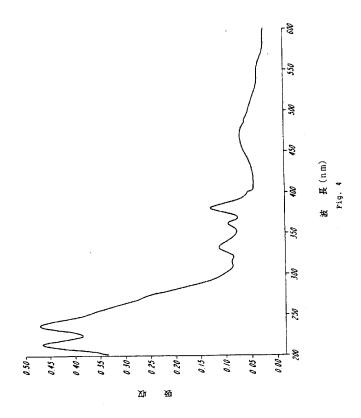
種々の火炎条件についての C_{10}/C_{10} 比は、グラファイト気化が $0.02\sim0.18$ であるのに対して、 $0.26\sim5.7$ の範囲であった。最大 C_{10} 収率の上記条件についてのこの比は、0.86であった。火炎条件を設定することにより、 C_{10} の収率を増大させ、 C_{10}/C_{10} 比を制御する能力は、グラファイト気化技術とは著しく異なる。

フルレン類の最大収率は、非常に多量の煤を生成する火炎では生じない。また、 フルレン収率は、同様の変化が低い煤収率を生ずる条件下では、温度の上昇、圧 力の低下とともに増大する。データ中のこれらの傾向は、煤のそれらと比較して フルレン類の形成および破壊反応間の実質的な違いを反映するものである。









		GE 8	奈	34	査	報	告	PCT/US92/043	
IPC(5) US CL	SSIFTCATION OF SUBJECTION OF S				both n	ational	classification	and IPC	-
B. FTEC	DS SEARCHED								
	ocumentation scarched (class 423/448, 461	er (scattor	1 1 7 5	tem lo	llo wed	by clas	nfication syr	nbout	
Documental	ion searched other than mini	mum doc	ume	nta lion	to the	extent (had such docu	ments are included	in the fields searched
Electronic d	late base consulted during th	ie įntemi	Lion	ai sear	ch (nan	ne p∫ da	sta base and.	where practicable	. scarch terms used]
C. DOX	UMENTS CONSIDERED	то ве	REI	LEVA	NT				-
Categorys	Citation of document.	with ind	icatio	on, wh	ere apç	ropriati	s, of the rele	vant passages	Relevant to claim !
Х - Y	US, A, 5,008.098 (Berns	diner es i	ul.) I	iá Apr	i 1991	See or	olumn 3. line	4 4-36.	1 - 6 . 8 - 1 2 . 1 18.21,23,24,30
× Y	Gerhardt et al. "The For Benzene Flamor" <u>Nature</u>								1-3.5.6.(0-21,23. 32,35-38 7.24,25.33
x	Bittner et al . *Pre-Partic During Combustion, publ								1-3.5,6,10-20,22,26- 35-38
X Y	McKinnon et al. "Combs States Section/The Combs								1-3.5,6,8, 10-21,26,27, 30,32-1 7,24-25,28
X Fint	er documents are listed in t	he conta	nustr	on of 1				nt family annex.	
	ecul compress of cond documents comme defining the properti data of he pain of paracides or invasion	da ar Phi	d is ,	-		т	bearing or a		
F -	tier decompany published on or often	-		-	-	x.		personales references. M vel er cannot be compete upont p teles alone	g channel inventor cannot and to moster to parameter to
٠٥٠ -	remoter which may drawn doubte of of its uniquined the publications deb- trial remotes too specified? remoter refurency as an oral disclar- ment.		****		-	Υ-	Approximate of committeed or residenced or rel brong otherwise	personale reference; de grades on personales anno er more editor esc to e posses abilitat de ti	e claumed inventors comment year when the decembers is decreased, such communi- ty art
-	remain published prior in the amore prioring date classed actual completion of the int					Date of		DE AUGUSTALISES DE SON	
24 AUGU					1		108	"OCT"1992	
Box PCT	nacing address of the ISA/ ner of Petents and Trademarks a, D.C. 20231						ZES OFFICER		Villiana
Washington									

		Œ	祭	講	査	報	告	PCT/US92/043	
(Contanua	tion). DOCUMENT	CONST	EREC	то	86 KJ	ELEVA	17		***************************************
Category	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages								Relevant to claim No
Calegory*		nent. with	indicat	ion. wi	vere ap	propriet	of the rel		Relevant to claim No